

福岡大学第二外科における乳腺領域手術症例 (2000年～2004年)の臨床像の解析

平塚 昌文 白日 高歩 岩崎 昭憲

福岡大学第二外科

要旨：日本における乳癌罹患率は増加の一途をたどり現在では女性悪性疾患中死因の第一位をしめる。我々第二外科でも年間約50例の乳腺疾患の手術を施行しており、今回過去5年間の乳癌患者の解析を行った。組織型はほとんどの症例が浸潤性乳癌で非浸潤癌は各年10%前後であった。また7割の症例はリンパ節転移をともなっていなかった。今回の解析期間中主な術式は胸筋温存乳房切除術であった。しかし近年乳癌の手術術式は急激に変化しつつあり、当科でも今後は、乳房温存（内視鏡下）やセンチネルリンパ節生検による腋窩郭清の省略を積極的に導入していく予定である。

索引用語：乳癌、乳房温存術、内視鏡手術、センチネルリンパ節